

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
社会のための継続的イノベーション検討小委員会
第25期・第15回議事要旨

令和5年9月22日

作成 澤田 隆

1. 日時 令和5年9月11日（木）10:00～11:20
2. 会場 遠隔会議 オンライン開催
3. 出席者 松岡委員長、越塚副委員長、小野、佐倉、関村、矢川、白鳥、宮野、山本、澤田（吉村、中村欠席）
4. 配付資料
 - 資料1 前回議事録
 - 資料2 記録「社会のための継続的イノベーション」
 - 資料3 小委員会経過報告
5. 議事
 - 1) 議事録確認（資料1）
 - ◎ 議事録を確認した。コメントなく了承された。
 - 2) 小委員会経過報告（資料2）
 - ◎ 松岡委員長より小委員会の経過報告があった。特にコメントなく了承された。
 - 3) 今後の進め方について

今期については今回が最終回となる。次期の進め方を議論した。主な意見を以下に記す。

 - ◎ イノベーションの定義、原子力の位置付けが難しい。
 - ◎ 広い視野から見た積りだったが、原子力（だけ）の話と受け取られてしまったのではないか？
 - ◎ 「社会のためのイノベーション」を具体化するには、社会がどう原子力を見ているか重要。必要かどうかではなく、恐ろしいとだけとみているのでは。
 - ◎ 4つのマイルストーン（事例）は重要。道筋を付けた意味がある。
 - ◎ 来期は別の項目で議論することも考えるべき。
 - ◎ メンバー構成が問題。原子力以外の委員が少ない。社会学、心理学等、原子力以外のメンバーが半数以上とするべき。そうしないと読む人がメンバーを考えてしまう。
 - ◎ レポートの題目が曖昧。「福島第一事故を踏まえて・・・」とか「原子力から社会への発信」等と付けるべきだったのでは。
 - ◎ 学会会議は報道されたこと（だけ）に反応すべきではないのでは。誰かが本質的な問題を定義する必要がある。
 - ◎ 今後の方向性として①あくまで原子力にフォーカスして、②より一般化してメン

バーを広める、がある。②は荷が重い。学術会議全体でやるべきではないか。

- ◎ 今後の方向として上記①とすべきではないか。必要に応じて他分野の人を呼んで話を聞けばよい。
- ◎ **SMR** は国策の色がない。社会との対話の余地がある。イノベーションとの親和性が高い。
- ◎ **SMR** をテーマにするのは良い。我が国と違って、米国では大学の構内に **SMR** を作ろうという動きが活発。
- ◎ 26 期には変更がある可能性もあり、小委員会の在り方も議論されている。原子力安全分科会が立ち上がった後で小委員会の在り方を議論したい。
- ◎ 第 1 部、第 2 部と合同の委員会の例もあるので検討しておくべき。

以上